

普及活動情勢報告（平成30年1月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

4JA シシトウ現地検討会を開催しました



1月16日に4JAシシトウ現地検討会を開催し、総勢27名が参加しました。検討会は、南国市の低位摘心4本仕立て及び、2本垣根仕立てのほ場を各1か所、香南市のほ場2か所で行いました。

農業改良普及課からは、適期定植やpFメーターを用いたかん水等の基本技術の徹底による収量向上対策や低位摘心方法等を紹介しました。

生産者からは、「すごく樹の感じが良い」「4本仕立てで枝をねかせる栽培をしてみようか」等の意見が聞かれました。次回は、春先の樹高が高くなる時期に開催する予定です。

農業改良普及課は、今後も現地検討会等を通じて、整枝方法やかん水管理など基本技術についての情報を提供し、生産安定を支援していくとともに、低位摘心における省力化について検討していきます。

ユズの有望系統を篤農家が評価！



12月27日、JA土佐香美柚子生産部会はJA物部出荷場で貯蔵ゆず出荷検討会を開催し、生産者6名が参加しました。

農業改良普及課では現在、地域の有望系統の調査を行っていますが、貯蔵ゆずに取り組む生産者は篤農家が多いことから、今回、実際の果実を見て評価してもらいました。

生産者からは、「この系統は貯蔵性が高そう。試しに植えてみたい。」等、高い評価が得られました。

今後も農業改良普及課は、ウイルスの影響や収量性等を調査し、産地での普及体制づくりを支援します。

青ネギの栽培等講習会 ～JA土佐香美洋菜部会～



1月15日にJA土佐香美洋菜部会が、青ネギ栽培等講習会を開催しました。農家33名が参加し、農業技術センターから養分吸収特性と効率的施肥技術、作型別系統特性把握や夏期の高温対策技術について説明しました。農業改良普及課は、経営安定のための栽培や調整作業の機械化と共同化による規模拡大、そぐりセンターの設立等将来構想の設定について説明しました。

参加者からは、「夏場高温で生育が悪く、病害虫も多く防除費用がかかり、経営が大変である」「高齢化していく中で将来構想が必要」などの意見がありました。

農業改良普及課では、青ネギ農家の経営安定のため、今後も高温対策など活動を支援していきます。

担い手候補者に対して農業の魅力について情報発信しました



12月15日、18日の2日間、高知農業高校農業総合科1年生40人を対象に、南国市でシシトウなどを栽培している指導農業士と普及指導員が講師となり「出前授業」を開催しました。

農業士からは、就農前に海外で学んだことが、今の農業に大きな影響を及ぼし視野が広がったことや農業の楽しさ、普及指導員からは農業改良普及課管内の農業の状況などを説明しました。

また現地の促成シシトウ栽培ハウスでは、環境制御技術など先進的な取り組みについて研修しました。生徒たちは、シシトウの仕立て方や炭酸ガスを施用しているダクトに手をかざして体感したり、病害虫防除に利用している天敵昆虫をルーペで確認したりするなど、現場ならではの貴重な体験をしました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携しながら担い手確保・育成に向けた活動を実施していきます。

JA 土佐香美ニラ部会産地ビジョン分科会を開催しました



1月19日に産地ビジョンの実現に向けた「経営安定チーム」及び「新規就農者等支援チーム」の分科会を開催しました。

JAと農業改良普及課が行った経営意向調査により、明らかになった離農・規模縮小農家の個別リストを提示し、営農を継続するための対策や空き農地・ハウスの活用について検討しました。

チーム員から「まずは困っている作業の相談をしてもらい、対応できる人につなぐことをすればどうか。」「空きハウスはすぐに無くなる。迅速な対応が必要。」「どこに相談して良いか分からない人は多い。空き情報リストがあることや相談先を周知する必要がある。」等の意見が出ました。

農業改良普及課は、今後も情報整理や周知など分科会の活動を支援し、産地ビジョンの実現に向け取り組みます。